

「変化を進化に」

～新体制で学園連携強化～



学校法人 帝塚山学園
理事長

吉川 勝久



これを実現するための3つの柱として、「教育内容の質の向上」「組織力の強化」「財政の健全化」を掲げ、各校園・法人本部がそれぞれの重点目標と行動計画を策定し、進めています。

その遂行にあたり、各校園・法人本部における各年度の事業計画の実績を検証してローリングさせてまいります。また、そのプロセスで、航路から外れば短期の追加施策を即座に行い、さらに、中長期の聖域なき追加施策の準備が必要と考えるところであります。

教育ブランドの向上を

大学につきましては、収入減に伴う支出の減少が伴わず、学園全体の4分の3以上の赤字を占める厳しい状況があり、収支の改善を図ることが最優先すべき課題であります。

中・高編では、平成29年度入学者の授業料等の改定を行いました。まずは順調なスタートを切れたと思いますが、より競争力を問われる時代を迎えますので、教育内容の一層の充実等、ブランド力を高めるとともに、人件費の抑制も図りながら、自立経営の転換、持続化を図ることが求められるところであります。

理事長就任から2年が経過いたしました。昨年は、第4次中期計画（平成28年度～33年度）策定と、そのスタートとなり、学園財政にとって影響が大きい大学の財政健全化を最優先課題として「財政健全化計画（大学編）」を先行させました。

続いて、平成28年9月に中学校・高等学校編を、平成29年2月に小学校・幼稚園編を順次策定し、着手できる事項から具体的に実施しております。

選ばれ続ける帝塚山学園に

第4次中期計画に基づき、各校園・法人本部の重点目標である教育連携の強化を実現するための実行組織として「教育連携室」を新たに設置しました。

教育連携室では、学園内の教育連携の推進をはじめ、新たにこども学科に設置された教職支援センターの運営協力や学園広報誌の発行などを主な業務とします。各校園においては、この組織と円滑に連携協力をし、重点目標の達成に力強く尽力いただくことを期待するものであります。

第4次中期計画は、学園創立以来の建学の理念・教育の精神に基づき、学園のあるべき姿として、「帝塚山教育を通じて、変化する時代に選ばれ続ける総合学園」を目指します。

総合学園の強み

小・幼編では、入園志願者数が今後、少子化の影響を強く受けていくことになります。幼小間の連携は勿論ですが、総合学園としての強みを生かすべく、さらなる各校園間の連携強化が重要であります。

新年度に際し、理事、評議員の改選はじめ、各部門のトップ人事、管理職の異動も比較的大きなものとなりました。「変化は進化に繋がる」との強い思いで新しい体制に期待するところであります。

私の目指す「目標年度の平成33年度には、良い形で学園創立80周年を迎える」を合言葉に、教職員一丸となってこれからも頑張っております。

